

第3章

これからの「奈良モデル」 ～進化（深化）する「奈良モデル」～

人口減少社会において、「奈良モデル」が持続可能なしくみとして一層発展していくため、県の役割や支援の方向性について検討した。

また、これらの方向性に基づき、県が市町村に対し、今後一層積極的な役割を果たすべきと考える取組について、現在進行中の3分野における取組と、今後新たな取組を進めていく分野として、民間との連携・協働の取組のひとつである市町村連携による事務・行政サービスの「共同アウトソース」や「専門人材の共同確保」の取組について述べる。

1. 「奈良モデル」における県の支援について

(1) 「奈良モデル」における県の支援の類型

これまで県においては、「奈良モデル」の取組を一層推進するため、県と市町村が有する総資産（職員、予算、土地、施設等）を県域のニーズに対応し有効活用するとの考えの下、広域連携に取り組もうとする市町村や、県との協働により事業を実施する市町村を支援してきた。支援策は次の4つの型に類型化できる。

① 財政支援（補助金、貸付金等）

補助金や無利子貸付により市町村の財政負担の軽減または平準化を図り、「奈良モデル」の取組を支援するものである。

平成23年度より「『奈良モデル』推進補助金」により複数の市町村が連携して取り組む事業の検討や計画策定、小規模なハード整備に対して支援してきたが、平成27年6月には、大規模なハード整備なども視野に、財政支援スキームを整理・充実した（「『奈良モデル』推進貸付金」、「市町村とのまちづくり連携推進事業」、「ごみ処理広域化奈良モデル推進事業」）。財政支援にあたっては、「奈良モデル」の考え方に合致する事業であって、国庫補助金や地方交付税制度を市町村が最大限活用した上で生じる財政負担に対し、県が支援することを基本的な考え方としている。

【図19 「奈良モデル」にかかる財政支援（平成28年度の支援内容）】

補助金の種類	内容(補助対象経費)	補助率・補助限度額
「奈良モデル」推進補助金	① 複数の市町村等が新たに広域連携するために必要となる一時的な経費 ② 県から権限の移譲を受ける事務を市町村が処理するため必要となる準備経費(H26～28)	○補助率 ・施設等整備 1/2 ・その他 3/4 ○補助限度額 ・広域連携 施設等整備 40,000千円 その他 20,000千円 ・権限移譲 施設等整備 20,000千円 その他 10,000千円
「奈良モデル」推進貸付金	複数の市町村が連携して取り組む大規模な施設整備に対し貸付	○貸付条件 無利子、充当率75% ○貸付期間 15年間(うち1年据置) ○償還方法 元利金等年賦償還 ○適用期間 平成27～29年度
市町村とのまちづくり連携推進事業	まちづくりを進めている市町村と段階的に連携協定を締結し、協働してまちづくりを推進するため、市町村の取組に対し補助	○補助対象 (包括協定又は基本協定段階) 協定を締結した地区に係るまちづくり基本構想や基本計画等の策定業務に要する市町村負担額 (個別協定段階) ・協定を締結した地区に係るまちづくりの中心となる拠点施設の整備、拠点施設周辺の公共インフラの整備等に要する市町村負担額 (原則、市町村の公債費のうち、地方交付税算入額を差し引いた額) ・まちづくりを目的としたイベント開催等に要する市町村負担額 ○補助率 (包括協定又は基本協定段階) ・国負担分を除き 1/2 (個別協定段階) ・拠点施設・公共インフラの整備等国負担分を除き 1/4 ・イベント開催等 1/2
ごみ処理広域化奈良モデル推進事業	複数市町村が連携して実施するごみ処理施設の整備に対し補助	○補助対象 ・計画・調査等:国交付金対象事業で、計画・調査等に要する市町村負担額 ・施設整備 :国交付金対象事業または地方交付税措置がある事業に係る市町村公債費のうち、地方交付税算入額を差し引いた額 ○補助率 ・計画・調査等 国負担分を除き 1/2 ・施設整備 国負担分を除き 1/4

② 人的支援（職員派遣、共同採用）

市町村または複数の市町村が共同で設立する機関への県職員の派遣や、技術職員の採用共同試験を実施することなどにより支援を行う。

③ 県有資産の有効活用による支援（県域ファシリティマネジメント）

県有施設等や県有地等の県有資産を市町村が有効に利活用できるよう支援するもので、県にとっても、二重投資を避けるとともに、県有資産を総合的に企画・管理活用できるといったメリットが生じる。

④ その他の支援（市町村への課題解決策の提案や検討の場づくり等）

県は、「シンクタンク機能」と「調整機能」を発揮し、課題解決策の提案や検討の場づくりなど、課題発掘の段階から市町村に寄り添い支援を行う。「奈良モデル」の取組の推進にあたっては、「奈良県・市町村長サミット」での課題提起や、県が個別の市町村に対し、各種の提案や調整を行うなど、検討段階から積極的に市町村を牽引する取組が功を奏している。

【A】「シンクタンク機能」の発揮

市町村に対し、政策決定に役立つデータの提供や、課題解決に向けたモデル提示を行う。また、技術的支援による人材育成や、国への制度要望などを実施する。

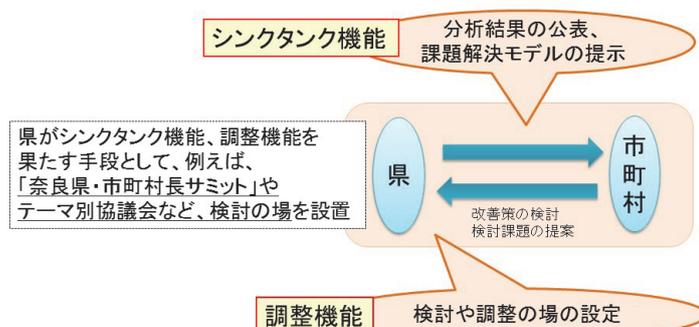
- シミュレーションやデータ分析を基に各市町村の特徴や順位の提示、課題解決モデルの提案を行う。
- 市町村の枠を超えた県域での政策を提案する。
- 施策実施の方法が未定で難度の高い課題について協働しながら解決策を提案する。
- マニュアルの作成や助言等によりノウハウを継承し、人材育成を行う。
- 国への働きかけ、発信を行う。

【B】「調整機能」の発揮

市町村間の利害が一致せず、市町村のみでは広域連携が難しい取組において、検討の場を設置し、調整役を担う。

- 複数の市町村による広域化の検討段階から協議に参加し、実現に向けて意見調整を行う。
- 他市町村との連携を希望する市町村があれば、関係市町村への打診を行うとともに、現状・課題やメリット・デメリットを整理して市町村に伝え、広域化を促進する。

【図20 シンクタンク機能・調整機能のイメージ】



(2) 今後の県の支援の基本的な考え方

① 検討段階における支援の重点化

「奈良モデル」の推進にあたっては、全ての取組において「シンクタンク機能」もしくは「調整機能」の発揮といった、検討段階における支援が効果的であった。

例えば、広域連携の実現においては、「奈良県・市町村長サミット」での問題提起や議論など、「奈良モデル」独自の取組が効果を発揮している。また、県が直接個別の市町村に対し、各種の提案や調整を行うなど、積極的に牽引する取組が功を奏している。

広域連携することによってメリットがあるにも関わらず、連携の意思がない市町村に対して、積極的にデータ提示をすることにより広域化の必要性の認識を促したり、広域連携に意欲的であるにも関わらず、利害対立等の障害により当事者だけでは連携困難な市町村に対して、県が積極的に調整役を担ったりという県の役割（シンクタンク機能、調整機能の発揮）は今後一層重要になってくるものと考えられる。

そこで、今後の県の支援の基本的な考え方として、取組の検討段階における支援をより重点化して実施していくことが肝要である。

今後とも積極的に執るべき県の支援例としては、次のものが考えられる。

- ・ 県が必要と考える取組について、積極的に市町村へ働きかける（政策提案）
- ・ 市町村間の利害調整に積極的に関与する
- ・ 検討段階における財政支援を実施する

このことから、平成29年度より、「『奈良モデル』推進補助金」の対象を、新たな広域連携の検討や調査、計画の策定の段階に特化し、検討段階における財政支援を重点化する見直しを行った。引き続き、施設等整備については、「『奈良モデル』推進貸付金」のほか、「市町村とのまちづくり連携推進事業」、「ごみ処理広域化奈良モデル推進事業」といった個別のスキームで支援していく。

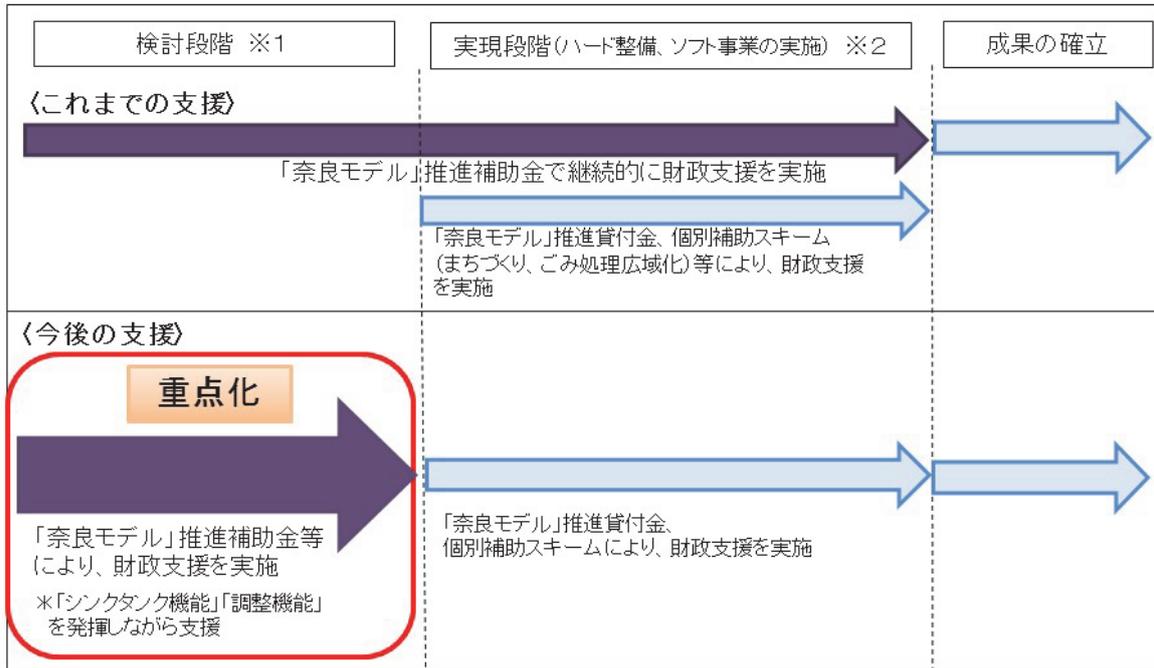
② 実現段階以降におけるPDCAサイクルによる取組の確実な推進

検討段階において「奈良モデル」の取組の有効性や実施可能性を調査・検証した結果、「奈良モデル」の取組が有効で実現可能であると判断されたら、具体的に取組を実現していく段階に入る。この段階において、県は、必要に応じて継続的にシンクタンク機能や調整機能を発揮しながら、財政支援や人的支援、県有資産の有効活用による支援を組み合わせ実施していくことになる。

「奈良モデル」の取組が浸透してきたことから、「まちづくり」や「ごみ処理の広域化」など、大規模なハード整備に対する支援に伴い、今後一層の財政負担が見込まれる。県の限られた資源を効果的に活用するため、「奈良モデル」の趣旨に合致する取組に対し、その効果などを総合的に検討し、支援していくことが重要である。

さらに、成果目標（KPI）を設定し、成果を検証し、手法の見直しなどを行うことでPDCAサイクルにより取組を推進していく必要がある。

【図 2 1 県の支援のあり方（イメージ）】



- 検討段階における支援を重点化することで、「奈良モデル」の推進を後押し。
- 実現段階では、随時「シンクタンク機能」や「調整機能」を發揮しながら、「奈良モデル」推進貸付金や人的支援、県有資産の有効活用による支援も行い、総合的に支援。
- 成果が確立したら、PDCAサイクルにより取組を推進。

※1 検討段階：「奈良モデル」の取組の有効性・実施可能性を含め、調査・検証し、計画を立てる段階

※2 実現段階：「奈良モデル」の取組が有効・実施可能と判断され、本格的な取組を進める段階